令和４年度香川大学ビジネススクール
―地域の中小企業と経済活性化―

■講座概要一覧

回	日程				講義	講師	
1	令和4年	10月	4日	(火)	地域活性化の政策と実践	近藤 清志	公益財団法人かがわ産業支援財団 理事長
2			11日	(火)	『誰か』のために一生懸命！ ～頑張る「社会」を応援したい！～	水本 規代	株式会社 sorani 代表取締役
3			18日	(火)	『海を休ませんか？』 持続可能な水産業のために私たちができること	船田 裕亮	株式会社藪水産 代表取締役
4			25日	(火)	佃煮の現状と未来 –「やってみなはれ」の精神で–	大野 英作	宝食品株式会社 代表取締役社長
5		11月	8日	(火)	希少糖の産学官連携事業から商業展開への道のり	早川 茂	一般社団法人希少糖普及協会 代表理事
6			15日	(火)	理念と基本姿勢	大久保 明	勇心酒造株式会社
7			22日	(火)	時代とともに変化する原材料調達 「ちりめんじゃこ 産地から食卓まで」	木村 豪	株式会社木村海産 専務取締役
8			29日	(火)	手袋職人の聖地を創る ～地域づくりと人間性の回復～	江本 昌弘	江本手袋株式会社 取締役
9		12月	6日	(火)	“わくわく”を形に –研究成果の社会実装を目指して–	松本 真治	株式会社四国総合研究所 代表取締役社長
10			13日	(火)	「培った得意分野で新しい物を 生み出し、新しい市場に挑戦する」	森山 竜志	株式会社興栄企画 代表取締役
11			20日	(火)	わたしたちはどう戦うのか –地元中小企業の夢の描き方–	眞鍋 有紀子	富士建設株式会社 代表取締役
12	令和5年	1月	17日	(火)	下請け脱却最大の壁 –知らないということは 存在しないと同じこと–	川西 功志	株式会社カワニシカバンプロダクト 代表取締役
13			24日	(火)	『ワイン好き』からワインの プロフェッショナルとして 生きてきた33年間	木内 千恵美	有限会社ディンカム 代表取締役
14			31日	(火)	「島の素材と共にある麦酒」	中田 雅也	合同会社ナカタ 代表社員
15		2月	7日	(火)	未来を見据えた発想で生きぬく	長峰 考志	株式会社長峰製作所 代表取締役

※講義概要は各ページをご覧ください

【第１回】講義内容の紹介　　10 月 4 日（火）

■講師

近藤 清志（こんどう　きよし）

公益財団法人かがわ産業支援財団 理事長

略歴

昭和 36 年	善通寺市出身
昭和 59 年	香川県採用
平成 28 年	商工労働部次長
平成 30 年	商工労働部理事
令和 2 年	商工労働部長
令和 4 年	（公財）かがわ産業支援財団理事長

令和４年４月から公益財団法人かがわ産業支援財団の理事長に就任。これまでの行政経験を活かし、創業や新分野への進出、商品開発や販路開拓、海外進出、経営基盤強化や経営課題の解決といった多様な企業ニーズに対応するための、県内企業の事業段階に応じた相談・助言、研究開発、人材育成や助成金などによるきめ細かな支援に努めている。また、新たに創業を考えている方に対する実践的な創業支援塾の開講や新規創業計画の作成支援に加え、創業後セミナーの開催や起業等スタートアップ補助制度により、創業の支援にも力を入れている。

中小企業が持つ“無限の可能性”をパートナーとしてサポートし、一緒に地域を元気にすることを目指している。

■講義概要

地域活性化の政策と実践

県内企業の総合的な支援機関として、新産業の創出や地域企業の経営基盤の強化、産業技術の高度化、科学技術の振興などに取り組む（公財）かがわ産業支援財団の活動概要と香川県の産業の特色等について講義します。

【第２回】講義内容の紹介　　10 月 11 日（火）

■講師

水本 規代（みずもと　みよ）

株式会社 sorani 代表取締役

略歴

昭和 50 年	綾南町（現・綾川町）出身
平成 6 年	香川県立香川中央高等学校　卒業
平成 10 年	福山大学工学部　卒業
平成 10 年	株式会社五星　入社
平成 19～27 年	製造業で勤務
平成 27 年	株式会社 sorani 設立
令和元年～	香川県よろず支援拠点コーディネーター

講師は、祖父が建設業を営んでおり幼い頃から『土木』が身近であったことから、大学では土木工学を学んだ。大学卒業後に就職した総合建設コンサルタントでは、情報関連知識・経験がない中、業務効率化ツールの構築や社内外の IT 利活用推進に携わった。その後、製造業で経営企画の管理職を経験し、基幹システム導入、ISO・５S を活用した現場改善及び管理、情報処理による作業効率化等の業務改善のコンサルティング実務を行い、平成 25 年には「IT コーディネータ」の資格を取得している。

その後、これまでの経験を活かすべく平成 27 年には株式会社 sorani を設立。GIS を活用した都市整備事業、橋梁や道路など社会インフラの点検及び点検結果のデータ整理等を支援する建設コンサルタント事業と情報活用を主とした企業支援事業を行っている。その傍ら、かがわ産業支援財団、香川県よろず支援拠点等の公的支援機関において IT 利活用・生産管理に関するコーディネーターとしても活躍している。

■講義概要

『誰か』のために一生懸命！

～頑張る「社会」を応援したい！～

小さい時から算数が大好きだった私は「リケジョ(理系女子)」で「ドボジョ(土木女子)」の変わった「女子」でした。女の子らしい習い事にたくさん通わせてくれた両親の期待とは裏腹に、スポーツが好きで「小さい男」とやじられる娘。そんな中で建設業への就職や起業は、周りの大反対を押し切って、負けず嫌いな性格だけで乗り切ってきたといっても過言ではありません。

会社経営は簡単なものではありませんが、目標をもって自分に向き合い、謙虚に、真摯に取り組むことでどのように成長したのか？ということをお伝えできればと思います。

【第３回】講義内容の紹介　　10 月 18 日（火）

■講師

船田 裕亮（せんだ　ひろあき）

株式会社藪水産 代表取締役

略歴

昭和 54 年	香川県出身
平成 14 年	山梨学院大学法学部卒業
平成 14 年	（株）藪水産入社
平成 30 年	代表取締役就任
令和 4 年	（株）FGROW 設立　代表就任

同社は平成 13 年に高松市庵治町で水産加工業として創業。海老専門 EC 店「海老乃家」を立ち上げ、消費者・生活者の目線を最優先に高品質な製品を鮮度の高い状態で届けることを使命として事業展開している。また、環境問題を早くから意識し、エビの剥き殻をエビオイルに再利用するなど SDG s に力を入れている。

講師は IoT を駆使し、海老を手始めとした小型の閉鎖循環型陸上養殖を普及させることで、環境問題や食料問題の解決に貢献することを目指している。

■講義概要

『海を休ませんか？』
持続可能な水産業のために私たちができること

かつては世界に冠たる水産大国であった日本の水産業は、現在衰退の一途をたどっています。一方で、かつてニシンの乱獲で水産資源枯渇の危機に陥ったノルウェーは、現在世界第二位の水産輸出量を誇る水産大国として復活を遂げています。

「日本とノルウェーの差は何か？」。その要因は大きく２つ挙げられます。１つ目はサステナブル思考。２つ目は、水産漁業の体制の大胆な改革です。ノルウェーの水産業は、この２つにテクノロジーを掛け合わせて、資源管理に成功。サステナブルな漁業が実現したのです。

翻って、「私たち日本の水産業の未来はあるのか？」。答えは、「大いにあります」。まずは、固定概念を払拭することから始めましょう。海だけが漁場ではありません。陸に目を向けてみませんか。「閉鎖循環型陸上養殖」が日本の水産業の復活のカギになると確信しています。今日は、そんな日本のサステナブルな水産業の明るい未来についてお話しさせていただきます。

【第 4 回】講義内容の紹介　　10 月 25 日（火）

■講師

大野 英作（おおの　えいさく）

宝食品株式会社 代表取締役社長

略歴

昭和 60 年	明治大学大学院農学研究科　修了
昭和 60 年	マルキン醤油株式会社　入社
平成 25 年	宝食品株式会社　入社
平成 27 年	常務取締役　就任
平成 29 年	代表取締役社長　就任

同社は昭和 23 年の創業以来、佃煮を中心にレトルト食品などの開発、製造及び販売を行っている。大手量販店や食品問屋を中心に全国へ出荷する一方で、有限会社京宝亭を設立して佃煮の販売処、カフェスペースの運営及びオンライン販売を手掛けている。

佃煮の市場規模が縮小するなかで、高度な品質管理体制を活かした防災食や宇宙飛行士が無重力空間で食べるための「ちりめん山椒」など、新しいジャンルの商品開発・販売にも取り組んでいる。

■講義概要

佃煮の現状と未来　–「やってみなはれ」の精神で–

創業以来長年にわたって「のり」「昆布」「魚貝類」などの佃煮の製造販売を行ってきました。販売先は、量販店や生協・各地のお土産店・ギフトショップなど多岐に渡っておりますが、佃煮の需要は米の消費量と同じ様に右肩下がりの市場となっています。「やってみなはれ」の精神で、炊き込みご飯や防災食、宇宙日本食などにチャレンジしております。これらについて一部、ご紹介を交えつつお話しします。

【第５回】講義内容の紹介　　11 月８日（火）

■講師

早川 茂（はやかわ　しげる）

一般社団法人希少糖普及協会 代表理事

略歴

昭和 52 年	名古屋大学農学研究科博士課程修了
昭和 54 年	名古屋大学農学部助手
平成 3 年	香川大学農学部教授
平成 21 年	香川大学農学部長
平成 25 年	香川大学理事・副学長
平成 27 年	香川大学名誉教授・特命教授
令和 2 年	一般社団法人希少糖普及協会代表理事

希少糖を用いた食品開発研究に 20 数年にわたって取り組み、産学官連携事業において民間企業における希少糖活用の支援を行ってきた。また、国際希少糖学会の事務局長として希少糖の世界への発信や希少糖研究者の育成に努めた。現在は（一社）希少糖普及協会の代表理事会長として希少糖の国内外に向けての普及活動を行っている。

■講義概要

希少糖の産学官連携事業から商業展開への道のり

自然界に微量しかない単糖である希少糖を生産する酵素を土壌中の微生物から単離し、希少糖の大量生産に向けた産学官連携事業が香川大学を中心にして 20 数年前に香川県で立ち上がった。

研究開発と事業化は困難の連続であったが、「知的クラスター」や「都市エリア事業」など、いくつかの産学官連携事業を通して、アルロース（プシコース）の大量生産が可能となり、食品加工素材として民間企業での活用が始められた。また、希少糖の研究開発や広報活動の流れの中で、希少糖含有シロップが新たに開発され、国内食品企業での利用（商品開発）が一定程度広がってきた。国際希少糖学会を設立し、2～3 年ごとに香川県において国際シンポジウムを開催し、希少糖研究者の育成ならびに香川県民や企業への紹介活動を通して希少糖の広報活動を行ってきた。このように産学官連携事業により、アルロース（プシコース）の商品利用価値の科学的根拠を明らかにするとともに、アルロースを含む希少糖含有シロップを利用した商品開発がなされてきている。こうした産学官連携としての希少糖の事業化について、商業展開を中心として講義を進める。

【第 6 回】講義内容の紹介　　11 月 15 日（火）

■講師

大久保 明（おおくぼ　あきら）

勇心酒造株式会社

略歴

昭和 23 年	東京都出身
昭和 47 年	東京大学農学部卒業
昭和 52 年	東京大学大学院修了（農学博士）
同年	東京大学助手
	助教授、教授を経て
平成 16 年	勇心酒造入社
	常務取締役研究所長を経て
	顧問

■講義概要

理念と基本姿勢

日本の伝統的な醸造発酵技術を活かし、更なる技術革新を重ねてお米の総合利用研究を続け、酒造会社からバイオテクノロジー会社へ変身した過程を紹介し、経営を支える理念と基本姿勢について述べる。

【第 7 回】講義内容の紹介　　11 月 22 日（火）

■講師

木村 豪（きむら　つよし）

株式会社木村海産 専務取締役

略歴

昭和 54 年	さぬき市出身
平成 13 年	カリフォルニア州立ビュート大学 情報経済学部　卒業
平成 13 年	㈱木村海産　入社
令和 2 年	専務取締役　就任

同社はカタクチイワシ等の加工業として昭和 37 年に創業し、国内の大手量販店や中央卸売市場・外食チェーン・コンビニエンスストアなどに向けた食品販売のほか、海外市場の積極的開拓を進めている。

また、ペットフード原料の生産も手掛けており、高品質なペットフード需要の高まりから、ちりめんじゃこやいりこを用いた原料の生産増加に対応すべく 2022 年 5 月に新工場を建設し、稼働を開始している。

講師は幼少の頃から、じゃこの加工現場が身近にあり、事業拡大の経緯を見守ってきた。現在は同社の工場長及び専務取締役を務める。

■講義概要

時代とともに変化する原材料調達
「ちりめんじゃこ　産地から食卓まで」

講義の概要は未定です。

【第８回】講義内容の紹介　　11 月 29 日（火）

■講師

江本 昌弘（えもと　まさひろ）

江本手袋株式会社　取締役

略歴

昭和 45 年	東かがわ市出身
平成元年	高松商業高等学校卒業
平成 2 年	江本手袋入社
平成 29 年	取締役就任

同社は昭和 14 年に創業し、一貫して縫手袋を手掛けている。数年前に主要な取引先である商社が倒産したことから自社ブランド「佩（ハク）」を立ち上げる。特にコロナ禍ではニーズに合わせた「ハンドソックス」を短期間で開発・製造を行い、自社通販サイトやクラウドファンディングにて流通させるなど、顧客の声に耳を傾ける経営を行っている。

講師は創業者の先々代、先代から受け継いだ手袋職人と手袋づくりの文化を守る想いに加え、「この町を手袋職人の聖地にする」というビジョンを持ち、イベント等で趣味の音楽と自社ブランド手袋を同時に発信する（瀬戸内バレアリック（注））ことで、地元産業の認知向上に貢献している。

■講義概要

手袋職人の聖地を創る
～地域づくりと人間性の回復～

香川中小企業家同友会に入会し、地場産業である手袋と自社の歴史、自身を改めて振り返り「人らしく生きるものづくりで喜び合える地域社会を創る」ことが江本手袋の理念であり使命だと気付く。コロナ禍でも「人らしく生きるものづくり」を貫き“ものづくりの責任”と“手袋職人を守り育てる”ことに取り組むなかで、労使見解の「人間性の回復」と「日本のブルネロクチネリ」というビジョンに確信を持った。

（注）瀬戸内バレアリックとは、江本氏自身が大切にしているマインドです。経営理念を追及する過程で、先人が築いてきた地域文化そのものがそのマインドだと確信し、地域と一体となった経営を行っています。

【第９回】講義内容の紹介　　12 月 6 日（火）

■講師

松本 真治（まつもと　しんじ）

株式会社四国総合研究所 代表取締役社長

略歴

昭和 32 年	愛媛県松山市出身
昭和 54 年	岡山大学工学部　卒業
同年	四国電力株式会社　入社
平成 29 年	四国電力株式会社取締役　就任
令和 元年	株式会社四国総合研究所
	代表取締役社長　就任

四国電力株式会社に入社後、幅広く電気事業に携わり、系統運用をはじめとした、主に技術畑を歩む。令和元年６月から株式会社四国総合研究所の代表取締役社長に就任。

同社は、幅広い分野の研究者を率いて、「電力・エネルギー」「社会インフラ設備の保全」「農業の振興」「防災・減災」を柱に社会的な課題解決に資する研究開発を進める。

さらに、近年はカーボンニュートラルや DX の推進を更なる成長の機会と捉え、水素社会を見据えた水素火炎可視化技術の開発など、国の基盤技術の高度化に向けた取り組みを加速させている。

また、香川県発明協会の会長職を務め、香川県内の発明奨励や知的財産権制度の普及啓発を推進している。

■講義概要

“わくわく”を形に

－研究成果の社会実装を目指して－

電力・エネルギー分野はもとより、土木建築・地質、情報通信、エレクトロニクス、化学、バイオテクノロジーなど、幅広い分野の専門家が在籍する強みを活かし、研究成果の社会実装を目指し、様々な社会課題の解決に取り組んでいる株式会社四国総合研究所の事業概要と、あわせて香川県内の発明奨励や知的財産権制度の普及啓発の推進について講義します。

【第 10 回】講義内容の紹介　　12 月 13 日（火）

■講師

森山 竜志（もりやま　たつし）

株式会社興栄企画 代表取締役

略歴

平成 10 年　　徳島文理大学卒業

平成 20 年　　株式会社興栄企画　設立

同社は船舶の製造修理業で大手造船所の一次下請けとして、コンテナ船の製造や港に出向いての修繕などを行っている。また、船舶業界で培った鉄を加工する技術を活かした金属加工や電装・艤装工事の技術を活かしたプラント工事や建設工事事業を展開している。

造船業の構造不況やコロナ禍により年々受注が減っているなか、講師の趣味であるアウトドアと金属加工の技術を活かし、独自のアウトドアアイテムを製造・販売するブランド「THE IRON FIELD GEAR」を立ち上げ、顧客の厚い支持を受けて次々と新製品を世に送り出している。

今後は、キャンピング場の運営など香川に足を運んでもらえるような事業展開を企画している。

■講義概要

「培った得意分野で新しい物を生み出し、新しい市場に挑戦する」

大手造船所の船舶の製造修理業として起業。その後、鉄を切断・溶接する加工技術を活かし、金属加工やプラント工事、建設へと事業を拡大。近年、BtoC 事業としてアウトドア事業を展開。「鉄を加工する技術者集団」として、鉄加工のさまざまな分野に広がる可能性の構築を目指すことについて講義します。

【第 11 回】講義内容の紹介　　12 月 20 日（火）

■講師

眞鍋 有紀子（まなべ　ゆきこ）

富士建設株式会社 代表取締役

略歴

昭和 51 年　　三豊市出身
平成 10 年　　早稲田大学法学部卒業
同年　　富士建設株式会社　入社
平成 29 年　　代表取締役　就任
＊公益財団法人中津万象園保勝会　評議員を務める。

同社は昭和 27 年に工務店として創業し、不動産部門や観光サービス部門等を開設して事業を拡大、現在は 6 法人 8 事業所のホールディングカンパニーとなっている。

うち、富士建設株式会社は、官公庁工事の売上・利益に占める割合が比較的高い地場ゼネコンの中で、平成 28 年頃より民間工事メインへ営業体制をシフト。「顧客が民間中心」ゆえに新型コロナウィルス感染症の影響も大きく受けたが、様々なチャレンジを経て、安定的かつ計画的に工事を受注できる状況を実現しつつある。

また、クラウドファンディングサイトの運営（現在は終了）や、丸亀市指定名勝 中津万象園の維持保全を 50 年以上に亘り支援していることも特徴的である。

■講義概要

わたしたちはどう戦うのか―地元中小企業の夢の描き方―

生涯現役を求められる中で、どう組織を作っていくのか。ハウスメーカー、大手ゼネコンとも同じ土俵で戦うことの多い時代に、どうすればお客様から選ばれるのか。クラウドファンディング事業や大名庭園の維持保全活用で得たネットワークや視点を、本業の運営に生かすことができるのか。

様々な試行錯誤の結果『見えてきたもの』を、皆様と共有したいと考えています。

【第 12 回】講義内容の紹介　　1 月 17 日（火）

■講師

川西 功志（かわにし　あつし）

株式会社カワニシカバンプロダクト 代表取締役

略歴

昭和 56 年	高松市東植田町　出身
平成 12 年	香川県立高松工芸高等学校　卒業
平成 19 年	カバン工場に就職
平成 24 年	古着屋 cheese オープン
平成 27 年	カワニシカバン product　創業
平成 30 年	株式会社カワニシカバンプロダクト設立

講師は高松工芸高等学校の機械科を卒業後に複数の業種で就業した後に、バッグ工場で技術を習得しながらも念願の古着販売店を開店する。古着販売店でカバンの下請けの仕事を継続するが、下請けの仕事が主になったことから販売店をカバン工場として改装し、創業を開始した。

平成 29 年に納品額を値上げしたことから受注がほぼゼロになるも、自社ブランドを立ち上げ、クラウドファンディングをはじめとして SNS を活用し徐々に販路を拡大している。

同社の商品は職人さん一人ひとりの仕事そのもので「カバンではなく“カバン作り”」という理念や、「ながく愛されるものづくり」という経営理念が SNS を通じて発信され、顧客の共感が得られていることが他社との差別化につながっている。

■講義概要

下請け脱却最大の壁

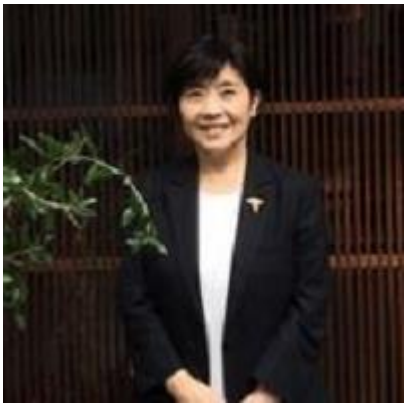
―知らないということは存在しないと同じこと―

どんなにいい商品を時間をかけて開発しても人に知られなければ存在しないことと同じこと。どんなに表面を飾っても商品に価値がなければ、信じてくれたお客様をがっかりさせてしまう。

このバランスをどう考えるか。カワニシカバンの出した答えを解説します。

【第 13 回】講義内容の紹介　　1 月 24 日（火）

■講師



木内 千恵美（きうち　ちえみ）

有限会社ディンカム 代表取締役

略歴

昭和 37 年	さぬき市出身
昭和 58 年	高松赤十字病院入社
昭和 62 年	ワーキングホリデー制度にて オーストラリアに滞在開始
平成元年	オーストラリアワインバー Dinkum Aussie 開業
平成 16 年	ワインとお食事のお店旭屋に移転開業 有限会社ディンカム設立

講師はワーキングホリデーにてオーストラリアに滞在した際、ワインに関する造詣を深める。帰国後に高松でワインを主とした飲食店を経営する傍ら、シニアソムリエの資格を有しワインスクールやソムリエ試験対策講座なども開催。ワイン愛好家やソムリエを増やしてきている。

新型コロナ感染症拡大の影響から顧客の来店が激減し、売り上げ確保のための対策を考える中でオンラインにて受講可能なハイブリット式スクールを実施した。今後は、様々な方法でワインに関する情報の発信を目指す。

■講義概要

『ワイン好き』からワインのプロフェッショナル として生きてきた 33 年間

看護師を辞めて渡豪したことがきっかけとなりワインの世界に入り、未経験のままワインバーを開業。ただただワインを広げたい思いだけで走ってきたこれまでと今後の思いをお伝えできればと思います。

【第 14 回】講義内容の紹介　　1 月 31 日（火）

■講師

中田 雅也（なかた　まさや）

合同会社ナカタ（まめまめびーる）　代表社員

略歴

昭和 58 年	大阪府枚方市出身
平成 18 年	アメリカ留学
平成 19 年	同志社大学卒業
平成 29 年	合同会社ナカタ　設立

講師は学生の頃にニューヨークで飲んだビールに感銘を受け、独自のビール造りを志す。大阪の広告会社で 7 年間会社員として勤めた後に、岡山のブルワリーにて 1 年間修行し、友人の勧めで訪れた小豆島にてビール醸造を開始する。

昨年度、かがわ県産品コンクールの食品部門で、小豆島産のもろみを活用したオリジナル地ビール「くろまめまめ」が最優秀賞を受賞。「100%小豆島産のビール」を目指し、地元農家と耕作放棄地を活用した麦栽培に取り組むなど、4 年間の試行錯誤の末に昨年「SHODOSHIMA100」を販売した。

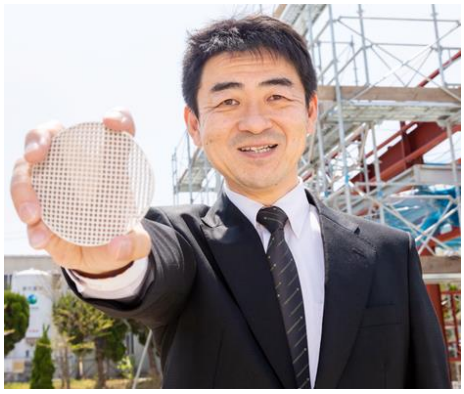
「地域に愛される、地域で飲まれるビール」をモットーに地域活性化にも一役を担うビール醸造事業を展開している。

■講義概要

「島の素材と共にある麦酒」

普段はあまり接することのないビール醸造についてのお話を織り交ぜつつ、小豆島でビール造りをしようとしたきっかけや、小豆島産の素材にまつわるストーリーをもとに、地域との結びつきについてお話しします。

【第 15 回】講義内容の紹介　　２月７日（火）



■講師

長峰 考志（ながみね　たかし）

株式会社長峰製作所 代表取締役

略歴

昭和 44 年	満濃町（現・まんのう町）出身
昭和 62 年	香川県立善通寺第一高等学校　卒業
平成 3 年	広島工業大学機械工学科　卒業
同年	三菱自動車工業株式会社　入社
平成 8 年	株式会社長峰製作所　入社
平成 21 年	代表取締役　就任

同社は明治 44 年に創業し、鋳物用の木型製造に始まり工業製品の金型製造から精密セラミックス製品、ハニカム触媒の製造を手掛ける。同社の強みである金型技術を活かして微細な金型を使用した射出成型を軸に様々な製品を製造する。

また、「R&D センター」を建設し、将来の技術開発にも力を入れている。

講師は香川大学ビジネススクールの修了生でもある。

■講義概要

未来を見据えた発想で生きぬく

創業以来培ってきた金型技術を武器にして、金型から一貫生産できる強みに基づき、金型の設計・加工・組立、精密セラミックスの製造・販売、ハニカム触媒・吸収剤の製造・販売の 3 本柱で事業を展開している。セラミックス製のマイクロノズルは国内シェア 50%を占めている。

これらの 3 本柱が売上の三分の 1 ずつを担っていて、事業の安定化に寄与している。こうした多角化を進めたのは、事業環境の変化によって、一つの事業にのみ依存することが企業成長にとってリスクがあることを経験したからである。

アンテナを張り巡らせ未来を見据えたオンリーワンの技術と商品、絶えずこれに磨きをかける姿勢・体制づくりが経営には求められる。